

## 臨床美術をご存知ですか？

会員の皆様へ

後援会事務局より

明けましておめでとうございます。皆さん良いお正月をお迎えのこととお喜び申し上げます。

「臨床美術」という言葉をお聞きになったことがありますか？大学36期の清水薫さんが、今臨床美術士として活動をされています。今回その「臨床美術」についてお聞きした内容を紹介いたします。皆さんの中には、絵画や造形を趣味にされている方も多いと思いますが絵画や造形の効用を改めて見直すことが出来るのではないかと思います。

臨床美術（クリニカルアート）とは；

絵やオブジェなどの作品を楽しみながら作ることによって、脳を活性化させる芸術療法（アートセラピー）のひとつです。1996年、医師・美術家・ファミリーケアアドバイザーがチームとなり実践研究がスタートしました。きっかけは認知症予防や症状改善・介護するご家族負担軽減などでしたが、現在ではこどもの情操教育や社会人のメンタルヘルスケアなどにも活用されています。また2019年には日本認知症予防学会からエビデンス認定も受けています。

五感をフル活用して上手下手にとらわれず自由に表現（見て、触って、音を聴いて、匂いを嗅いだり時には味わったりしながら描きます）することにより、脳が活性化し心はリフレッシュする芸術活動です。「芸術」とは、見るもの、鑑賞するだけのものと思いませんか。絵を描いたりオブジェを作るといった創作活動は、「芸術家」だけに許されたものではありません。オリジナリティーや創造性は、高齢者から子どもまで私たち一人ひとり、だれもが本来持っているものです。心の中にある想いを、思い切り創作活動にぶつけることで、人々の心は解放されていきます。「見たとおりに描く」のではなく「感じたように自由に表現する」上手・下手にとらわれない自分だけの表現を通し感じる自己肯定感・達成感などが体験できます。

清水さんの活動内容；

本業の日本画家として活動しながら、絵画教室を主宰。同時に和歌山臨床美術士グループの代表として、要望に応じて自治体、幼稚園、小学校などでクリニカルアートのワークショップを開催されています。



柿のネガポジ画



クリスマスキャンドル制作

清水 薫さんについて

和歌山大学教育学部美術専攻 テニス部 (36期)

臨床美術士

和歌山臨床美術士グループ「和の輪会」代表

和歌山市美術家協会会員

日本美術院 院友

※「臨床美術」及び「臨床美術士」は、日本における働芸術造形研究所の登録商標です。

興味のある方は清水さんまで連絡下さい。

[k\\_shimizu@hera.eonet.ne.jp](mailto:k_shimizu@hera.eonet.ne.jp)